

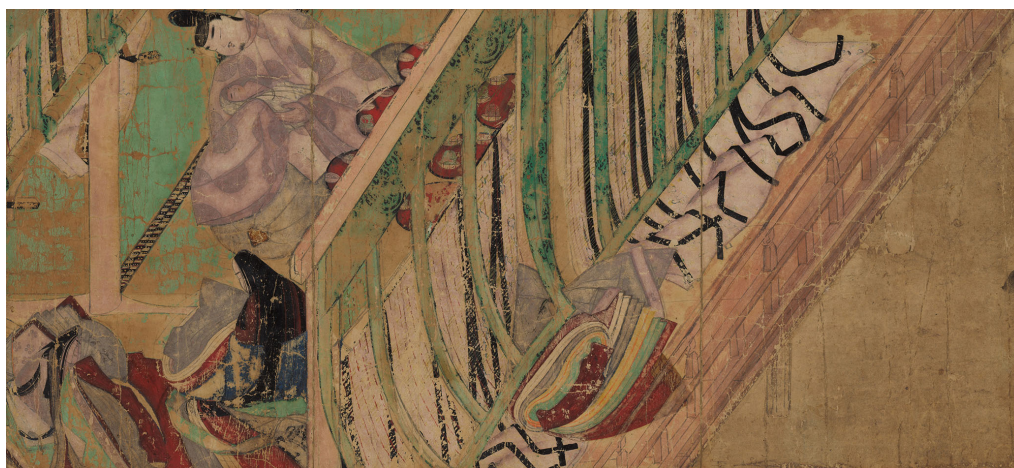


No. sma0067

(2024.3.28)

サントリー美術館
「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」開催

会期：2024年7月3日（水）～9月1日（日）



国宝 源氏物語絵巻 柏木（三）

一巻 平安時代 12世紀

【展示期間：7/3～7/15】

※いずれも徳川美術館蔵

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2024年7月3日（水）から9月1日（日）まで「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」を開催いたします。

将軍家に連なる御三家の筆頭格であった尾張徳川家に受け継がれてきた重宝の数々を所蔵する徳川美術館。家康の遺品「駿府御分物」をはじめ、歴代当主や夫人たちの遺愛品、刀剣、茶道具、香道具、能装束などにより、尾張徳川家の歴史と華やかで格調の高い大名文化をご紹介します。屈指の名品として知られる国宝「源氏物語絵巻」と、三代将軍家光の長女千代姫が婚礼調度として持参した国宝「初音の調度」も特別出品される貴重な機会となります。

《 展示構成 》

※作品は全て徳川美術館蔵

※展覧会場では章と作品の順番が前後する場合があります

第1章 尚武 ものの心の備え



国宝 太刀 銘 長光 名物 津田遠江長光
一振 鎌倉時代 13世紀
【通期展示】



重要文化財 脇指 無銘 貞宗 名物 物吉貞宗
一振 南北朝時代 14世紀
【通期展示】



銀溜白糸威具足
一領 江戸時代 17世紀
【通期展示】

尾張徳川家は徳川家康（1542～1616）の九男・^{よしなお}義直（1600～50）を初代とする御三家筆頭の大名家です。慶長5年（1600）9月、かの天下分け目の大戦・関ヶ原合戦から約2カ月後、義直は大坂城で誕生しました。はじめ甲斐国を与えられましたが、慶長12年に兄で家康四男の^{ただよし}松平忠吉（1580～1607）がこの世を去ると、その跡を継ぎ清須城主となりました。同19年には尾張徳川家代々の居城となる名古屋城を完成させ、尾張国一国・美濃国・三河国の一部・信濃国の木曾山など、六十一万九千五百石に及ぶ領国を有しました。

大名は武力で支配権を確立した武士であり、軍事戦闘集団の長でした。泰平の世にあっても、大名はあくまでも武士として常に備えを怠らず、江戸時代を通じて刀剣や鉄炮などの武器や、甲冑などの武具類を取り揃えていました。尾張徳川家では特に、家康や歴代当主ゆかりの品々を、家の由緒を示す宝物として大切に守り伝えてきました。

第1章ではこのような作品の中から、具足・刀剣・刀装具・陣中道具などをご紹介します。

【主な出品作品】

- | | | | | |
|--|----|---------|-------|------|
| ・徳川家康画像（東照大権現像） | 一幅 | 伝 狩野探幽筆 | 江戸時代 | 17世紀 |
| ・ ^{ぎんだみしろいとおどしくそく} 銀溜白糸威具足 | 一領 | | 江戸時代 | 17世紀 |
| ・国宝 太刀 銘 ^{ながみつ} 長光 名物 ^{つだとおとうみながみつ} 津田遠江長光 | 一振 | | 鎌倉時代 | 13世紀 |
| ・重要文化財 脇指 無銘 ^{さだむね} 貞宗 名物 ^{ものよしさだむね} 物吉貞宗 | 一振 | | 南北朝時代 | 14世紀 |

第2章 清雅 一茶・能・香一



重要文化財 織部筒茶碗 銘 冬枯
一口 江戸時代 17世紀
【通期展示】



紅地雷文・四ツ花菱文厚板
一領 江戸時代 17世紀
【展示期間：7/31～9/1】



青磁香炉 銘 千鳥 大名物
一口 南宋時代 13世紀
【展示期間：7/3～7/29】

政治を担い文化を庇護する立場にあった大名には、礼法や教養が求められました。特に、茶・能・香は、儀礼や外交といった公的な場で行われたため、必ず習得すべき芸道でした。

室町時代に成立した茶の湯は、儀礼や饗応の場に組み込まれました。茶の湯道具は家の格を表したため、大名家では競って華々しい伝来を持つ名物茶器を蒐集しました。

能は、足利將軍家の庇護を契機として武家から愛好されると、江戸時代には武家の正式な音楽、すなわち式楽しきがくとなりました。大名は、江戸時代以前の著名な面打師めんうちしの面おもてを求め一方、御抱えの面打師に自らの愛好する流派にちなむ面も作らせました。また、大名家の豊かな財力と染織技術の向上を背景に、上等な裂を用いた華麗かつ独自の意匠の能装束も誂えられました。

香をたいて優劣を競う遊戯である薫物合せたきものあわせを基として室町時代に成立した香の文化は、江戸時代にも引き継がれ、上質な香木とともに、贅を凝らした蒔絵の香道具などが求められました。

第2章では、尾張徳川家伝来の貴重な茶道具・能装束・能面・香道具を中心に特集します。

【主な出品作品】

・重要文化財	柳 <small>りゅうえんず</small> 燕 <small>ず</small> 函	一幅	伝 牧谿筆	南宋～元時代	13世紀
・重要文化財	織部筒茶碗 銘 冬枯 <small>ふゆがれ</small>	一口		江戸時代	17世紀
・紅地 雷文・四ツ花菱文厚板		一領		江戸時代	17世紀
・青磁香炉 銘 千鳥 大名物		一口		南宋時代	13世紀

第3章 求美



白綸子地鼓に藤・杜若文打掛
一領 江戸時代 19世紀
【展示期間：7/3～7/29】



箏 銘 青海波
一面 桃山～江戸時代 17世紀
【通期展示】

武具をはじめとする公的な「表道具」に対して、大名自身やその家族が「奥」とよばれる私的な生活の場で使用した道具、また教養を高め、趣味や遊びに用いた道具は「奥道具」と言われます。大名自身をはじめ武家の者は、和歌を詠み、絵・音楽や文学に親しむことを一つの価値観・人生観とし、数多くの作品や道具類が大家に所蔵されました。

書では、歴代天皇の宸翰^{しんかん}、著名な歌人や文人、あるいは歴代藩主の筆跡などが、儀礼の空間に飾られ、贈答品としても用いられました。絵画も同じく、古今東西の名画が鑑賞のみならず儀礼空間の荘厳や贈答に用いられました。

第3章では、武家女性の華やかな小袖^{こすそ}、箏^{そう}の琴・琵琶などの楽器類、囲碁や将棋などの遊戯具、そして書や絵画など、尾張徳川家の由緒ある奥道具を中心にご覧いただきます。

【主な出品作品】

- ・白綸子地鼓^{しろりんず}に藤・杜若文打掛^{ふじ かきつばたもんうちかけ} 一領 江戸時代 19世紀
- ・重要文化財 純金葵紋蜀江文皿 一枚 江戸時代 寛永16年(1639)
- ・重要文化財 純金葵紋牡丹唐草文盃 一口 江戸時代 寛永16年(1639)
- ・箏 銘 青海波^{せいがいほ} 一面 桃山～江戸時代 17世紀
- ・松橋蒔絵貝桶・合貝^{あわせがい} 一式 江戸時代 安永9年(1780)
- ・新六歌仙画帖 一帖 狩野常信画 真敬法親王筆^{しんけいほうしんのう} 江戸時代 17世紀
- ・短冊色紙貼交帖「言葉の林」 二帖の内 一帖 江戸時代 19世紀

特別公開 国宝 初音の調度



国宝 初音蒔絵旅眉作箱
一具 江戸時代 寛永16年(1639)
【展示期間：7/3～7/29】



国宝 胡蝶蒔絵将棋盤・駒箱
一揃 江戸時代 寛永16年(1639)
【展示期間：7/31～9/1】

寛永16年(1639)三代将軍徳川家光の長女千代姫(1637～98)が数え3歳で尾張徳川家二代光友に嫁いだ際の婚礼調度は、「初音の調度」の名で親しまれています。『源氏物語』第二十三帖「初音」に題材をとった「初音蒔絵調度」47件、同じく第二十四帖「胡蝶」に基づく「胡蝶蒔絵調度」10件、その他の意匠の蒔絵調度や染織品、刀剣など13件の計70件で、平成8年(1996)に一括して国宝に指定されました。このうち「初音蒔絵調度」および「胡蝶蒔絵調度」などの蒔絵調度は、室町時代から江戸時代に至るまで、時の政権に蒔絵師として仕えた幸阿弥家十代長重(1599～1651)が手がけました。葦手文字を散らした文学的意匠もさることながら、総体梨子地仕上げで、高度な技術を要する高蒔絵や研出蒔絵に平蒔絵、切金・付描などさまざまな蒔絵技法が駆使されており、漆工史上、最高峰の蒔絵技術を示す名品として高く評価されています。

本展では、この貴重な「初音の調度」の中から、旅眉作箱と将棋盤・駒箱を紹介します。

【出品作品】

- ・国宝 初音蒔絵旅眉作箱 一具
江戸時代 寛永16年(1639) 展示期間：7月3日～7月29日
- ・国宝 胡蝶蒔絵将棋盤・駒箱 一揃
江戸時代 寛永16年(1639) 展示期間：7月31日～9月1日

特別公開 国宝 源氏物語絵巻



国宝 源氏物語絵巻 橋姫
一巻 平安時代 12世紀
【展示期間：7/31～8/15】

11世紀初頭に紫式部が著した『源氏物語』を絵画化した現存最古の作例で、12世紀前半、院政期の宮廷を中心に製作されたとみられます。数多く描かれた源氏絵のなかでも、物語への深い理解と共感に基づき、平安貴族の生活様式や美意識をよく伝えており、ひとときわ高い格調と説得力をもって、観る者を魅了します。

絵は、「作り絵」という技法や「引目鉤鼻」と呼ばれる人物の顔の表現などを用いた繊細緻密な描写で、華麗な彩色を施しています。屋根や天井を取り払って俯瞰的に描く「吹抜屋台」の手法を巧みに取り入れた画面構成をとり、物語の世界観や登場人物の心理の動きまで、見事に描き出しています。

詞書は抄出文ながら、別本系に属し、現存最古の本文として貴重です。詞書は、紫や蘇芳などの暈かし染め、金銀の砂子や大小の切箔・裂箔・野毛を撒いた華麗な料紙を一紙ごとに継いでいます。書は、伝統的な連綿体の上代様の書風に加え、新様の法性寺流をはじめ、新旧を交えた5種（展示は3種）の書風でしたためられています。絵と書、料紙装飾が一体となった絵巻は、爛熟した院政期の美意識を余すところなく凝縮した美の結晶ともいえるでしょう。

尾張徳川家に伝来した絵巻は、昭和7年（1932）に卷子装を解き、額面装に改装されましたが、平成28年（2016）から5年にわたる修復において、保存の観点から絵の段ごとに15巻の卷子装に戻されました。

本展では、徳川美術館が所蔵する国宝「源氏物語絵巻」から特に4場面を選び、会期中順次展示替えをしながらご覧いただく貴重な機会となります。

【出品作品】

- ・国宝 源氏物語絵巻 柏木（三） 一巻 平安時代 12世紀
展示期間：7月3日～7月15日
- ・国宝 源氏物語絵巻 横笛 一巻 平安時代 12世紀
展示期間：7月17日～7月29日
- ・国宝 源氏物語絵巻 橋姫 一巻 平安時代 12世紀
展示期間：7月31日～8月15日
- ・国宝 源氏物語絵巻 宿木（二） 一巻 平安時代 12世紀
展示期間：8月16日～9月1日

【本展における展覧会関連プログラム】

◎講演会「文化を守る－徳川美術館とコレクション－」

講師：徳川義崇氏（徳川美術館 館長）・吉川美穂氏（徳川美術館 学芸部部长
代理）

日時：7月21日（日）14時～15時30分

会場：6階ホール

料金：700円（別途要入館料）

定員：95名

※当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選。

◎夏休み特別イベント「まるごといちにち こどもびじゅつかん！」

開催日：2024年8月6日（火）

休館日の1日が“こども専用びじゅつかん”に。小・中学生とその保護者を対象に休館日の美術館を無料開放し、様々なプログラムを実施する特別イベントを今年の夏も開催します。

※詳細は6月下旬にお知らせします。

徳川美術館展 尾張徳川家の至宝

- ▼会 期：2024年7月3日（水）～9月1日（日）
※作品保護のため、会期中展示替を行います
- ▼主 催：サントリー美術館、徳川美術館、読売新聞社
- ▼協 賛：三井不動産、竹中工務店、サントリーホールディングス
- ▼会 場：サントリー美術館
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階
交通機関（東京ミッドタウン [六本木] まで）
都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

- ▼開館時間：10時～18時
※金曜および8月10日（土）、11日（日・祝）、31（土）は20時まで開館
※いずれも入館は閉館の30分前まで
- ▼休 館 日：火曜日（8月27日は18時まで開館）
- ▼入 館 料：
- ・当日券：一般1,800円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料
 - ・前売券：一般1,600円、大学・高校生800円
- ※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱
- ※前売券の販売は2024年4月17日（水）から7月2日（火）まで
- ※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ
- ▼割 引：
- ・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引
 - ・団体割引：20名様以上の団体は100円割引
- ※割引適用は1種類まで（他の割引との併用不可）
- ▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）
- 日 時：7月4日（木）・18日（木）、8月1日（木）・15日（木）・29日（木）
12時、13時、14時、15時にお点前を実施
（お点前の時間以外は入室不可）
- 会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回12名／1日48名
- 呈茶券：1,200円（別途要入館料）
- ※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様2枚まで）

詳細および最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

【お問い合わせ】

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：<https://www.suntory.co.jp/sma/>

▽広報画像のお申込み：

<https://www.suntory.com/sma/press/exhibition/v94r7P/tokugawa0328.pdf>

▽報道関係のお問合せ：

「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」広報事務局（株式会社TMオフィス内）

担当：馬場・永井・西坂

TEL：050-1807-2919

E-mail：tokugawa@tm-office.co.jp

▽美術館への取材に関するお問い合わせ：

サントリー美術館〔学芸〕石田・安河内〔広報〕光田

https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

以 上